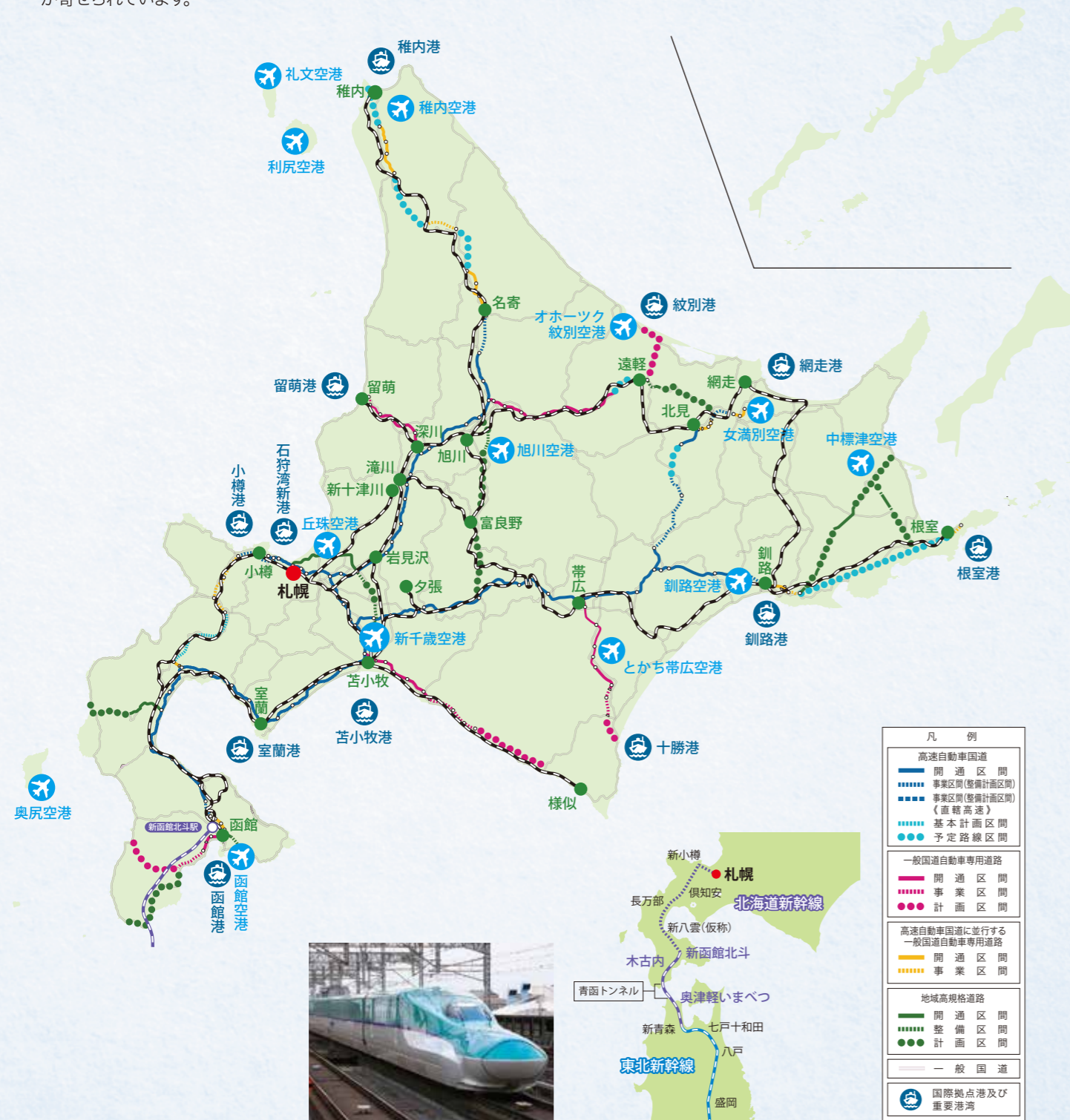


# 整備された交通ネットワーク

## ▶北海道内の交通ネットワーク

北海道内外において「人の移動」や「物の輸送」を円滑に行うため、陸・海・空の交通ネットワークが整備されています。道路は、北海道縦貫自動車道や横断自動車道などの高速道路や高規格道路のほか、幹線道路が整備されています。鉄道網は広い道内を多くの路線で結んでいます。また平成28年3月に新青森～新函館北斗間が開通し、東京と結ばれました。この北海道新幹線は平成42年末までに札幌まで延伸され、期待が寄せられています。

港湾は、苫小牧港や室蘭港の国際拠点港湾のほか、10の重要港湾と23の地方港湾があります。道外の主要港にフェリーやコンテナ船が就航しているほか、海外主要港と国際コンテナ航路が結ばれています。空港は、新千歳空港をはじめ13空港が整備されています。道内外の空港に航空便が運航しているほか、海外、特にアジア圏の空港とも定期便が就航し、多彩なネットワークを構築しています。



# 国内外と結ばれた交通ネットワーク



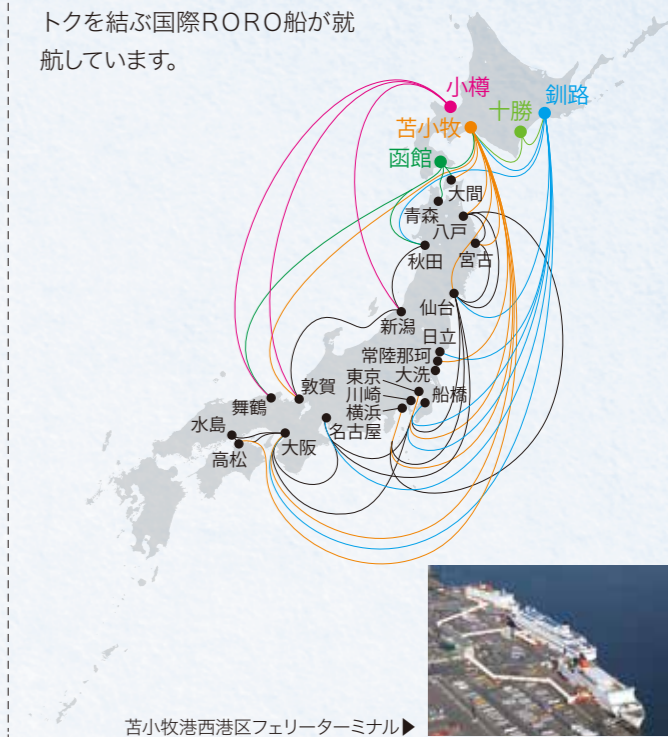
## ▶高速輸送が可能な航空ネットワーク

新千歳空港をはじめ道内9空港が、羽田空港や中部空港、関西空港、福岡空港など主要都市と直行便で結ばれています。特に新千歳空港～羽田空港路線はLCCも含め国内最多路線として1日50往復以上運航されており、迅速な移動と高速輸送が可能となっています。国内航路に加え、中国本土、台湾、香港、韓国のほかタイやシンガポールなど経済発展がめざましいASEAN諸国の主要空港にも就航しています。



## ▶低コスト大量輸送が可能な海上ネットワーク

苫小牧港や小樽港、函館港等から本州に向け、フェリーが9航路、RORO船が10航路、コンテナ船が2航路、定期就航しており、低コスト大量輸送が可能となっています。また、苫小牧港や石狩湾新港、室蘭港、函館港、釧路港から、韓国・中国・北米に向け、コンテナ船が9航路、定期就航しています。さらに小樽港とウラジオストクを結ぶ国際RORO船が就航しています。



## ▶環境にやさしく定時制に優れた鉄道ネットワーク

鉄道貨物輸送は航空輸送や海上輸送に比べ、CO2排出量が少なく環境性、定時性に優れた輸送機関として利用されています。現在、北海道内には12ftコンテナや31ftコンテナを取扱う駅が14駅あり、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡向けに、1日上下40本(臨時列車を除く)の鉄道コンテナ列車が運行されています。

